

災害時に備えた 平常時からの体制づくり

資料提供:社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会 西区社協事務所

災害時への備え～自助と共助～

自分の身は自分で守る

自 助

- ・ 自分自身
- ・ 家庭 など



自分でできる
「備え」を見ていきましょう

地震に対する家の中の安全対策

家具の転落・落下防止

家具と壁の間にすき間をつくらない。
し字型金具や家具の転倒防止シートなどを利用し転倒・落下を防ぐ。



窓ガラスの飛散防止

窓や食器棚などに
飛び散り防止フィルム
をはる。

スリッパなどの準備
(裏返しに置く)



家具を安全に配置

寝室や子ども、高齢者の
部屋には倒れそうな
家具はできるだけ
置かない。



重い物は押入やタンスの下へ

避難路を確保

避難路を確保するため、
通路や出入口には
できるだけ荷物を
置かない。



避難ルート of 確保

家の中に「安全な場所」を確保しておくとい

水害発生時に避難する場合の注意点

● 動きやすく安全な服装で



ひもで締められる
運動靴がよい。
裸足・長靴は厳禁。

● 足元に注意



冠水すると足元が
見えず側溝などに
足がはまることも。
長い棒などを杖代
わりにすると安全。

● 深さに注意



歩行可能な水深は
50cm。流れが速い
と水深20cm程度
でも危険。
危険なら無理せず
高所で助けを待つ。

● なるべく複数で避難 要配慮者を守る行動を



2人以上で避難し、
ロープで互いを結ぶ。
高齢者・ケガ人・子ども
の安全を確保する。

※ 車での避難は控える



避難情報(警戒レベル)

警戒レベル	新たな避難情報等		これまでの避難情報等
5	 <p>災害発生 又は切迫</p>	<p>きんきゅうあんぜんかくほ</p> <p>緊急安全確保※1</p>	<p>これまでの避難情報等</p> <p>災害発生情報 (発生を確認したときに発令)</p>
<p>〜〜<警戒レベル4までに必ず避難！>〜〜</p>			
4	 <p>災害の おそれ高い</p>	<p>ひなんしじ</p> <p>避難指示※2</p>	<p>・避難指示(緊急)</p> <p>・避難勧告</p>
3	 <p>災害の おそれあり</p>	<p>こうれいしゃとうひなん</p> <p>高齢者等避難※3</p>	<p>避難準備・ 高齢者等避難開始</p>
2	 <p>気象状況悪化</p>	<p>大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)</p>	<p>大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)</p>
1	 <p>今後気象状況 悪化のおそれ</p>	<p>早期注意情報 (気象庁)</p>	<p>早期注意情報 (気象庁)</p>

災害時への備え～自助と共助～

地域では
どのような「備え」が
できるでしょうか



共 助

- ・ ご近所
- ・ 町内、校区
- ・ 自主防災組織
- ・ ボランティア、NPO

住民・市民の助け合い

計画を作成した校区で話題に挙がること…

「誰が誰を支援する」を決めたが、
実際の災害時にどれくらい
動けるのかが不安…

地域のボランティアだけでは不安…
他にも誰か協力を得られないか



計画の実行性をより高めるための取組み事例や、
協力者を増やす取組み事例を紹介します。

※全て福岡市内の事例

【事例】安否確認訓練やインクルーシブ訓練 (当事者参加の避難訓練)

今つくっている体制で、災害時に
どれくらい動けるのか確認する
ために訓練(シミュレーション)を
してみよう！



～訓練の効果・メリット～

- ・シミュレーションをしておくことで、実際の災害時の対応・流れが少しでもイメージできる。
- ・課題点や改善点を把握することができ、より良い体制づくりにつながる。

安否確認訓練(一例)

大丈夫ですか？



無事確認しました



安否確認後、
町で情報を集約

各町の一時避難場所



校区避難場所まで避難！



校区で各町の情報を集約！

インクルーシブ訓練(一例)

※当事者参加の避難訓練



- ・避難行動要支援者本人にも参加してもらい、実際に自宅から避難場所へ避難するシミュレーションなどを行う訓練。要支援者の健康・安全に配慮して実施。

※訓練に地域の福祉・介護事業所が協力している例も

【事例】実際の災害時に訓練等が役立った事例

＊協力者を増やす取組み事例でもあります



- ・日頃から、地域と事業所で災害時の協力についての話し合いや訓練を行っていたことで、
平成30年7月豪雨の際、実際に地域と事業所で協力して、要支援者をスムーズに避難誘導できた。
- ・さらに、令和2年9月の台風では、避難所の設営や運営に事業所が協力した。

＊協力者を増やす取組み

【事例】事業所や企業との連携事例①



- ・防災訓練のプログラムのひとつとして、車いすの操作方法や、避難のサポート方法を、校区内の介護事業所スタッフから地域住民へレクチャー

＊協力者を増やす取組み

【事例】事業所や企業との連携事例②



- ・地域と事業所・企業の間で、日頃から災害時に協力できることを話し合い、避難所への送迎支援や、避難場所の提供、人的・物的な支援などを事前に申し合わせている事例もある。